

選

い

イチジクは コバチと共に 生きている 青空広子

- ・生命誌研究館の誇る研究の一つです。イチジクコバチがイチジクの中に卵を産み、その受粉を助けてくれないとイチジクは実を作れません。互いに共生関係を作り上げることで両方が進化してきました。(永田)

ろ

老化とは 恒常性の 乱れなり 宇和爾

- ・生きるということは、細胞のレベルから身体全体に至るまで、常に一定の状態を保とうとする働きを基本としています。これを恒常性と言いますが、老化すると、この恒常性が破綻して、さまざまな不都合が起こってきます。(永田)

は

発生は 細胞たちの マスゲーム かのん

- ・マスゲームでちょっとはずれるのがいたりして。(中村)
- ・多様な細胞が協調して形ができていく様子が目に浮かびます。(川名)

に

人間も ことばも 自然の一部だね！ きよみん

- ・生命誌は、生きものの一つとしての人間に注目するところに特徴があります。ことばも含めて生きものを考えると膨らみが出ます。(中村)

ほ

ハウレン草 雄株と雌株が ありました 久兵衛

- ・オスとメスは“生きる”の基本を支えていますね。(中村)
- ・身近な食物なので、今日はどっちを食べてるんだろう？と思えるかも。(齊藤)

へ

変種こそ 未来の地球の 主人公 宇余りペテルギウス

- ・すべての進化はゲノム上の変異から起こります。その真理を衝いた句ですね。同じ種でもその変種の多さには目をみはるものがあります。(永田)
- ・新しいものが生まれ、多様になることによってこそ、生きものは続いていけるのです。(中村)

と

飛べない虫は 大陸と共に のび子

- ・この発見は、生命誌研究の原点になりました。ムシだけ、地面だけを見るのではなく関係を見ると自然の本質が見えてくるのがわかった時は、目を開かれたと思いました。(中村)
- ・普段の暮らしでは実感できない長い時間を感じられるのは科学の醍醐味です。(齊藤)
- ・当たり前、でも気づかなかったことって、他にもあるでしょうね。(村田)

ち

チバニアン NとSとが 入れ換わる 狂風

- ・千葉県市原市にある約70万年前の地層です。地磁気のN極とS極が最後に入れ替わった時期の地層として大切なもの。初めて日本の地域の名前が地質年代として採用されました。訳せば「千葉の時代」、ちょっと誇らしい気がしませんか。(永田)